

お話会の記録が絵本選択行動に与える
影響

筑波大学
図書館情報メディア研究科
2013年 3月
今満 亨崇

目次

第1章	背景と目的	3
1.1	背景	3
1.2	目的	3
1.3	論文の構成	3
第2章	絵本選択支援の現状と関連研究	4
2.1	絵本の選択基準	4
2.2	絵本リスト	5
2.3	子どもの好みの取得の研究	7
2.4	お話会のための絵本選択支援の研究	7
2.5	本研究の方向性	8
第3章	実験システム:よみびとしらず	9
3.1	概要	9
3.2	ログイン	10
3.3	検索	11
3.4	詳細情報の表示	13
3.5	判断履歴	14
3.6	使用ログ	15
第4章	実験	16
4.1	実験概要	16
4.2	データの収集	16
4.3	実験手順	17
4.3.1	練習	17
4.3.2	絵本選択実験	18
4.3.3	事後アンケート	19
第5章	結果	20
5.1	被験者	20
5.2	提示される情報	21
5.3	検索語と検索対象	22
5.4	参考にした情報	23

5.5	判断理由	24
5.6	参考にした情報と判断理由	25
第6章	考察	27
6.1	お話会の記録が絵本選択に与える影響	27
6.2	お話会の記録が絵本選択に与える影響の強さ	27
6.3	お話会の記録と検索	28
6.4	今後の課題	28
第7章	おわりに	29
	謝辞	30
	参考文献	31
	付録	33

第1章 背景と目的

1.1 背景

子どもが絵本と触れ合う機会として、読み聞かせがある。読み聞かせとは、「読み手（保護者・教師・図書館員・上級生など）が本の書き言葉を音声にして、ほんとうの読者（こどもなど）の読書を応援すること [1]」であり、一般的に読み手と聞き手が同じページを見ながら行われる。

読み聞かせは子どもにとって良いものと考えられている。例えば子どもが本好きになる効果があると言われていたり [2]、「想像力を育む」・「言語能力を高める」・「人間関係を豊かにする」といった教育的意義があるとされている [3]。特に、複数の聞き手に対して行われる読み聞かせ（以下、お話会）では、聞き手が複数いることで物語理解やイメージ形成に影響を与えることが明らかになっている [4]。このことを反映して実際に、日本の小学校の 96.3%でお話会が実施されている [5]。

しかしながら、お話会を行う際の問題点として使用する絵本を選択するのが困難だということが挙げられる。例えば、2008年だけでも絵本の新刊は1,792点出版されており [6]、毎年大量に出版され続けている絵本の中からお話会で使用する絵本を選択する事は困難だと言える。特にお話会を行うのはボランティアの人々が多く、絵本に関する知識も、絵本選択に割ける時間も少ない場合が多い。

1.2 目的

このように、お話会は子どもにとって良いものであるとされる一方、お話会を行うためには絵本選択が大きな障害となっている。そのため本研究では、お話会のための絵本選択支援を目的とする。

1.3 論文の構成

本論文では、第2章で読み聞かせにおける絵本選択支援を扱った研究及びサービスを紹介し、本研究の方向性を述べる。その後第3章で本研究の調査のために構築したシステムを紹介し、第4章で行った実験について述べる。第5章では得られた結果を示し、第6章で考察を行う。

第2章 絵本選択支援の現状と関連研究

2.1 絵本の選択基準

どのような絵本がお話会の絵本として適しているか判断する材料として、絵本の判断基準が存在する。例えば平塚市図書館では、以下の様な基準を公表している [7]。

大きさ

小さすぎたりせず、ある程度の大きさは必要です。

見え方

絵は遠目がきくものを選びましょう。

バランス

絵と文章のバランスがうまくとれていることをチェックしましょう。文章が多すぎると、見ている子どもたちは飽きてしまうこともあります。

内容

対象の年齢や時期を考慮しましょう。季節や行事などにあわせると、子どももおはなしに入っていくやすくなります。好きかそうでないか、自分が好きだ、読み聞かせたい！という思いは自然と子どもに伝わります。

また、そういった本の雰囲気は、読み手のキャラクターなどと自然にマッチするので、読み手らしいとても素敵な読み聞かせになります。

しかし、このような基準は具体的でなくどのような絵本を用いれば良いのかの判断が困難である。そこで加藤は、読み聞かせに適した絵本を容易に選択できる基準の作成を行った [8]。加藤はボランティア団体がお話会で使用する絵本や、子どもが好きな絵本に示す反応とその内容の調査等を通して、6カテゴリ 35項目からなる選択基準を作成した。この基準の特徴は、全ての基準について「はい（ある）」か「いいえ（ない）」かを判断することにより、その絵本が読み聞かせに向いているかどうか判断できる点である。

2.2 絵本リスト

選択基準を用いることで、ある絵本が読み聞かせに向いているかどうか判断することは容易となる。しかし、どのような絵本を選択するか全く候補のない状態では、基準と絵本を見比べながら基準に合うかどうかの判断を何度もする必要があり、実用的でない。そこで、どのような絵本が存在するのかを知るための手助けとして、絵本リストが存在する。

絵本リストは、リスト作成者が良い絵本であると判断した絵本を紹介するものであり、書誌事項や内容紹介、リスト作成者のコメントなどが書かれている。図 2.2.1 に絵本リストの例を示す。

しかし、絵本リストには次のような2つの問題点が存在する。1つは、リストに掲載する絵本の選択及びその紹介が主観的であり、良い絵本であるかどうかの信頼性に疑問が残る点である。もう1つは、リストに掲載された絵本が良い絵本と言っても、どの程度良い絵本なのかまでは不明な点である。そこで吉岡は絵本リストの統計による良書リスト（以下、統計リスト）を作成している [10]。

統計リストとは、ある絵本がどれだけの絵本リストで紹介されたかを集計したものである。これにより、複数の絵本リストで紹介された絵本は良い絵本であるし、多くの絵本リストで紹介された絵本ほど質の高い絵本であると考えられる。統計絵本リストの一部を表 2.1 に示す。例えば「ちいさいおうち」は52の絵本リストで紹介されている。これは、「ちいさいおうち」は良い絵本であると考えられ、かつ、この表にある他の絵本よりも質の高い絵本であると考えられる。

吉岡の研究で統計リストを作成する際に用いた絵本リストは、主に子どもに与



89	はらべこあおむし エリック＝カール さく もりひさし やく	978-4-03-328010-3	創成社	1989
			幼 低 中 高	3分
	葉っぱの上の小さな卵から生まれたあおむしは、おなかへべこべこ。月曜日にはリンゴを1つ食べるが、まだおなかへべこべこ。火曜日にはナシを2つ、水曜日にはスモモを3つ食べる。こうして一週間食べ続けたあおむしは、土曜日にはおなか痛くなる。でも次の朝に葉っぱを食べると元気になり、ちっぽけだった体は大きくなる。さなぎになって何日も眠り、やがてきれいなチョウになる。	コラージュの絵には独特の味わいがある。あおむしが食べた穴から顔をのぞかせる。その繰り返しで、幼い子供にも、ストーリーの展開を目に見えるようにわからせてくれる。単純な仕掛けが、大きな効果をあげているので、素直に読み聞かせたい。		
90	はろるとむらさきのくれよん クロケット・ジョンソン 作 岸田裕子 訳	978-4-579-40245-8	文化出版局	1972
			幼 低 中 高	8分
	はろるとは月夜の散歩がたくなり、紫のクレヨンで月と道を描いて歩き出す。はろるとがクレヨンで描くものは次々と本物になり、不思議な冒険が始まる。ドラゴンを描くと、怖くなって手が震え、線が波型に。波型の線はいつの間にか水になり、はろるとはおぼれそうになるが、すばやくボートを描いて乗り込む。冒険の末、疲れて帰りたい。そこで自分の家の窓とベッドを描き、ベッドに入って眠る。	はろるとのクレヨンから思いもかけない絵が生まれ、どんどん話が進んでいく。読者も参加しているような楽しさがあり、親しみやすく、だれもが気軽に楽しめる絵本。続編に『はろるとのふしぎなぼうけん』と『はろるとまほうのくにへ』がある。		

図 2.2.1: 東京都立図書館のリスト [9]

表 2.1: 統計リスト (吉岡 [10] より一部抜粋し加筆修正したもの)

書名	文	出版社	掲載リスト数
ちいさいおうち	リー・バートン	岩波	52
ぐりとぐら	中川 李枝子	福音館	48
かばくん	岸田 衿子	福音館	47
てぶくろ	ウクライナ民話	福音館	47
いたずらきかんしゃちゅうちゅう	リー・バートン	福音館	46
かにむかし	木下順二	岩波	43
どろんこハリー	ジオン	福音館	43
三びきのやぎのがらがらどん	北欧神話	福音館	43
しろいうさぎとくろいうさぎ	G・ウイリアムズ	福音館	43
おおきなかぶ	ロシア民話	福音館	42
ふしぎなたけのこ	松野正子	福音館	42
もりのなか	M・H・エッツ	福音館	41
はなをくんくん	ルース・クラウス	福音館	41
きかんしゃやえもん	阿川弘之	岩波	40

えるのに良いとされる絵本をまとめたリストであり、お話会に特化したものではないが、この手法をお話会向けの絵本リストに適応することでより信頼性の高いお話会のための統計リストを作成できる可能性はある。

しかし、そもそも現在の絵本リストに書かれている内容は絵本に関する情報が主である。中村によると読み聞かせに関連する主な変数は絵本だけでなく、読み手や聞き手、およびそれら相互の関係も変数として存在する [11]。そのため絵本のみ注目するのではなく他の変数を用いることで、より良い絵本選択支援が行えると考える。

2.3 子どもの好みの取得の研究

絵本のみならず子どもも変数として考慮し絵本選択支援を検討している研究として松村らの絵本推薦の研究がある。松村らは協調フィルタリングと内容ベースフィルタリングを用いて、子どもの好みを反映した絵本推薦システムの実現を目指している。

2008年の研究では協調フィルタリングに必要な子どもの好みを、読み聞かせ時の子どもの反応と好きな絵本の関係性を利用して取得することを検討している [12]。この研究では、家庭での読み聞かせを対象とし、子どもの好きな絵本とそうでない絵本、およびそれら絵本を読み聞かせたときの子どもの反応を収集し分析を行った。その結果、好きな本に特徴的な反応と、そうでない絵本に現れる平均的な反応を比較することで、子どもの好みを取得できる可能性を示している。

一方内容ベースフィルタリング実現のためには、子どもが好きなページに見せる反応とその絵本の主題の関係性を検討している [13]。この研究では、親子での読み聞かせ場面を撮影し、絵本のページに対する反応の強さと、そのページに含まれている主題の関係性を分析した。その結果、子どもが興味を持つページには「楽しむ」「陽気な」といった主題が、興味を持たないページには「家族」「他者を認識する」という主題が含まれていることが明らかになった。この研究は今満らにより再分析が行なわれ、その結果「見る」「座る」「考える」「失敗する」「話す」「住居」「楽しむ」「他者を認識する」の8主題が子どもが好きな絵本で見せる反応と相関がある事を明らかにした [14]。

2.4 お話会のための絵本選択支援の研究

2.1節及び2.2節で示した通り、お話会の絵本選択支援には絵本リストが有効であると考えられる。さらに、第2.3節で述べた通り、子どもの好きな絵本を的確に推薦するために、読み聞かせ時の子どもの反応に着目した研究が行われている。これらのことから今満は、現存する絵本リストに子どもの反応情報を付与した絵本リストを作成し、その有効性を検証している [15]。

リストの作成に必要な、書誌事項や内容紹介は市販の絵本リストから、子どもの反応情報はお話会の記録から収集している。お話会の記録とは、お話会を行った日付や、読み聞かせた絵本のタイトル、子どもの反応等を記録したものである。多くの図書館やボランティア団体が、お話会を行った後にこの記録を作成しており、大量に存在している。記録の一例を図2.4.1に示す。この記録から、絵本を読み聞かせた時の子どもの反応に相当する部分を抽出している。

作成した絵本リストを用いて実験を行い、子どもの反応情報はどの程度絵本選択の参考にされるのかを絵本の書誌情報や内容紹介との比較で明らかにしている。結果として、子どもの反応情報は内容紹介と同程度参考にされており、新しい支援の可能性が示された。

おはなしかいプログラム記録表	
よみかせ書 すばなヒトイコト	422年5月22日
語り手	『ろばさんのかわいいバック』 [個人名削除]
よみかせ書名 (科学・知識絵本)	
読み手	『へんなおにまわり』 [個人名削除]
よみかせ書名 (ものがたり絵本)	
読み手	『おにまわりくん』 [個人名削除]
参加人数	12名
内訳	大人6名, 子ども6名
開催場所	
サポート者	おはなし室, [個人名削除]
反応その他	すごく集中して、話を聞くことができた子どもたちだったので、 今回はもう少し長いお話でも大丈夫だったかもしれません。

図 2.4.1: お話会の記録 (個人名は削除している)

この研究では子どもの様子のみに着目して研究を行なっている。しかし、お話会の記録には子どもの様子以外にも様々な情報が書かれている。そこから、絵本選択支援にこの記録を活用することが可能ではないかと考えた。それは様々な場所で作成されている記録を web を通して共有するというものである。こうすることで、ある絵本について様々な読み聞かせの実践報告を知ることができるのである。

2.5 本研究の方向性

本研究ではお話会の記録に書かれた情報が、お話会のための絵本選択に与える影響を明らかにする。そのために、お話会の記録の検索システムを実装し、実験を行う。

第3章 実験システム:よみびとしらず

3.1 概要

実験用システム「よみびとしらず」の開発を行った。本システムは絵本を書誌情報や内容紹介、レビュー文、お話会の記録から検索することのできるシステムである。また、検索結果の画面から気になる絵本をクリックすることで詳細情報を見ることができる。このシステムを表 3.1 の開発環境の元、web アプリケーションとして実装した。次節以降システムの使い方を中心に機能を説明する。

表 3.1: 開発環境

OS	CentOS 5.8
web サーバー	Apache 2.2.3
データベース	mysql 5.0.95
開発言語	Ruby 1.8.7

3.2 ログイン

図3.2.1は本サイトに初めてアクセスした時に表示されるページである。ヘッダーには「ホーム」、「実験の説明」、「ログイン」画面へのリンクが貼られている。このシステムのすべての機能を使用するにはまず、ログインする必要がある。ヘッダー部分のログインをクリックしログイン処理を行うとヘッダーが図3.2.2のように変化する。このヘッダーはログイン状態である限り常に表示されるようになっている。ここから絵本の検索や、自分が過去に絵本の詳細情報を見てどのような判断をしたかの履歴閲覧など、本システムの機能を全て使用できるようになる。これらの機能については本章で述べるが、実験の説明及びアンケートに関しては第4章で述べる。



図 3.2.1: トップページ



図 3.2.2: ログイン後のヘッダー

3.3 検索

ヘッダーの「検索する」をクリックすると図 3.3.1 の画面が表示される。本システムでは著者、タイトル、内容紹介、レビュー、お話会の記録の 5 項目を指定して検索を行うことができる。また、検索の際に複数の条件（例えば、著者が「エリック」、「タイトル」がはらぺこあおむし）を指定して検索することはできないが、1 つの条件で複数単語（例えば、タイトルが「はらぺこ」と「あおむし」）を用いて検索することはできる。

検索結果は図 3.3.2 のように表示される。ここではお話会の記録を「クリスマス」という単語で検索した場合の例を示している。検索結果は、検索フォームの下にリスト形式で表示され、1 冊ごとに書影、タイトル、著者、検索に合致した部分のスニペットが表示される。スニペットは 30 文字程度で、検索に合致した語句は赤色で強調して表示される。ただし、タイトルや著者で検索を行った場合には、このスニペットは表示されない。また、書影の下の「候補:」という部分は、以前その絵本の詳細情報を見た時に、その絵本をお話会で使用する絵本の候補として挙げたかどうかを○×で表示する。詳細は 3.4 節に示す。

著者から探す: 検索

タイトルから探す: 検索

内容紹介から探す: 検索

レビューから探す: 検索

お話会の記録から探す: 検索

すべて表示する:

図 3.3.1: 検索フォーム

レビューから探す: 検索

お話会の記録から探す: 検索

すべて表示する:

検索結果: 5件

 **ふゆですよ**, 柴田晋吾 穉矢奈々
...ので、理解はできたと思う。が、最後に、「**クリスマス**かいをはじめましょう」のページになるまで...

候補:

 **オリオン**, リボンのかたちのふゆのせいざオリオン, 八板康磨 杉浦範茂
...には注目している。読む前に星をとりだし(**クリスマス**飾り用の)で夜星を見たことがあるかと尋ね...

候補:

図 3.3.2: 検索結果

3.4 詳細情報の表示

検索結果から各絵本のタイトル部分をクリックすると詳細情報が表示される。図 3.4.1 に一例を示す。詳細情報の画面では、データベースに登録してあるその絵本に関するすべての情報が表示される。具体的には、書影、タイトル、著者、出版年、内容紹介、お話会の記録、レビューである。さらに、ページ上部には、この絵本をお話会で使用する絵本の候補として挙げるかどうか、またそのように判断した理由を記入するスペースがある。

ここに、その絵本を候補に挙げるかどうかとその理由を記録すると、3.3 節でも述べた通り、検索結果の表示の際に、その絵本を候補に挙げたかどうかを○×で表示されるようになる。さらに、次回以降このページにアクセスした時には、前回の入力が入力された状態で表示される。

○候補に挙げる ○候補に挙げない 記録する

着目した点と選択理由

ふゆですよ ← タイトル

ふゆですよ, 柴田晋吾/峰矢奈々, 2009年10月 ← 著者・出版年

ふゆがきました。山にも、海にも、田んぼにも…。いろんなところにふゆがきました。みんなどんなふうにするのかな? ← 内容紹介

書影

お話会の記録 ↓ お話会の記録

レビュー ↓ レビュー

○「こんにちは ふゆですよ」と、様々な冬の景色を各ページで説明する本で、単純だったので、理解はできたと思う。が、最後に、「クリスマスかいをはじめましょう」のページになるまで少し長すぎたかもしれぬ。

○10月の終わりだったかな。前の週までは半そででも大丈夫だったのに、急に寒くなった日がありました。木枯らしのような冷たい風の中を夕方息子と二人で歩いている時に息子が「もう秋が通り過ぎて冬になっちゃったよ」と言いました。この時に息子は冬の到来を感じたようです。冬をど

図 3.4.1: 詳細情報

3.5 判断履歴

3.4節に示した通り、絵本の詳細情報を読んだ後、その絵本を候補に挙げるかどうかとその理由を記録すると、その情報が蓄積されていく。過去に自分がどのような判断をしたかを確認するにはヘッダーの「判断履歴」をクリックする。すると図3.5.1の様な画面が表示される。ここでは自分が候補に挙げるかどうか判断した絵本が全て表示される。表示される順番は、上から候補に挙げるかどうかの判断が新しい順に並んでいる。また、一度候補に挙げるかどうか判断した絵本であっても、理由の追加・修正を行った場合や候補に挙げるかどうかを変更した場合、過去に入力していた情報は削除されず、新たに同じ絵本に対する判断履歴が作成される。図3.5.1の場合、直近で候補に挙げるかどうか判断した絵本は、「ちいさなおうち」である。この絵本は、「春の絵本で、短そうなので導入に使いたい」という理由で「候補に挙げる」という判断がなされている。また、「ゆきむすめ」は最初「何度もお話会で使用されているみたいなので」という理由で「候補に挙げる」と判断されていたが、直後に「悲しいお話みたいなので」という理由で「候補に挙げない」という判断に変更している。



図 3.5.1: 判断履歴の表示

3.6 使用ログ

本システムは利用者がどのようにシステムを使用したのか記録するようになっている。利用ログは実験の分析のためにのみ用い、被験者が閲覧する機能はない。使用ログは、アクセスされた時間、使用された機能、フォームに入力された値、ユーザー名が記録される。

第4章 実験

4.1 実験概要

まず、実験を行うために必要なデータを収集し、データベースへの登録を行った。その後、お話会の記録が絵本選択に与える影響を明らかにする事を目的として実験を行った。被験者は、小学校や公共図書館等で過去にお話会を行ったことがある人を対象とし、被験者がどのように本システムを用いたか、どのような理由で絵本を選択しているかの情報を収集した。実験期間は2012年12月24日から2013年1月5日の12日間である。

4.2 データの収集

実験を行うために、必要なデータの収集を事前に行った。以下にそれぞれのデータの情報源及び取得方法を示す。

タイトル、著者、内容紹介

楽天ブックス書籍検索 API [16] を用いて予め収集した。

レビュー

家庭での読み聞かせのレビューが多く登録されている mi:te [17] から収集した。ただし、mi:te にレビュー情報が登録されていないものは、同じく家庭での読み聞かせのレビューが多く登録されている絵本ナビ [18] から収集した。

お話会の記録

公共図書館で行われているお話会を対象に、絵本1冊ごとに自由記述で記録を付けている図書館の記録を収集した。

本研究では、ある絵本に対しタイトル、著者、内容紹介、レビュー、お話会の記録の情報が全て付与されている必要がある。そこで、最もデータ数が少ないお話会の記録に含まれる絵本を初期の集合とした。その後お話会の記録からタイトルと自由記述部分を抽出し、そのタイトルを元に著者や内容紹介、レビューを取得した。その際、レビューや内容紹介がない絵本に関しては実験用システムへの登録を行わなかった。

お話会の記録はT図書館から収集した。T図書館では1997年3月からお話会の記録を作成しており、お話会186回（延べ313冊）分の記録がある。異なり245冊に対して書誌情報やレビュー等の情報を収集し、最終的に183冊の絵本の情報を実験用システムに登録した。

4.3 実験手順

実験は図4.3.1の手順で行った。まず、システムの使い方の説明を行った。ここではシステムの機能と、利用手順を説明した。実際に被験者にシステムの説明をするために使用したwebページを付録に付す。次に練習として何も制限を加えず、自由にシステムを使用させた。その後絵本選択実験として具体的にお話会を想定してシステムを使用させた。最後に、普段の絵本選択について尋ねるアンケートを行った。なお実験を行う場所は被験者に一任し、こちらでは指定しなかった。

4.3.1 練習

第3章に示した手順で、実際にログインから判断履歴の閲覧までの一通りの作業を行うよう指示した。時間は10分程度を想定した。その際、絵本を選ぶ条件に制限は設けなかった。

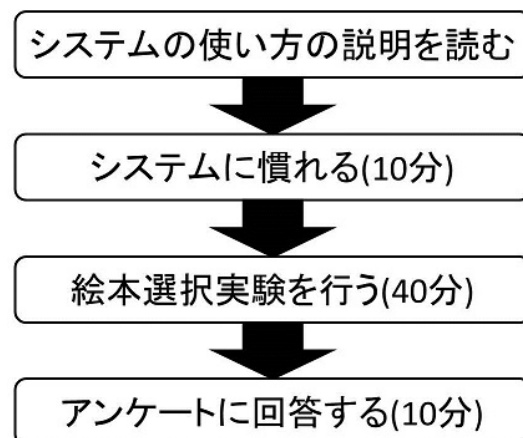


図 4.3.1: 実験の手順

4.3.2 絵本選択実験

実験を行うにあたり、以下の様な制限を課し絵本選択を行なってもらった。

- 絵本選択の状況に関する制限
 - － 12月にお話会を行う
 - － 場所は近くの公共図書館
 - － 参加者の年齢等は不明
- データ収集のための制限
 - － 詳細情報を見た絵本に関しては必ず候補に挙げるかどうかの判断を記録すること
 - － 候補に挙げたかどうかに関わらず、そう判断するために「参考にした情報」と「判断理由」を以下の形式で書くこと(図4.3.2に記入の例を示す。
 - * 「注目した場所」と「判断理由」は両方共必ず組みで書くこと
 - * 「注目した部分」は、行頭に「！」を付け、該当部分の文章を書く
 - * 「判断理由」はその下の行に書く
 - － 本システムのみを用いてお話会で使用する絵本の候補を挙げる
 - － 自分が過去にお話会で使用したことのある絵本は候補に挙げる
 - － 後に実物をみる状況を仮定しているので、実物を見るのに無理の無い量を候補に挙げる

お話会のための絵本選択と言っても、被験者が想定する場所や時期などは多様である。そこで、絵本選択の状況に関する制限を行った。12月に公共図書館でお話会を行うという制限は時期と場所を制限しているが、これは実際にお話会をお行う際に必ず事前に分かっていることであると考え指定した。一方、公共図書館で行われるお話し会は参加者の人数や属性を予測するのが難しいため、実験においても、年齢等は不明ということにした。

着目した点と選択理由

！動物たちがどぶ一んと入っては、みんなぼっかぼか。	← 注目した部分
寒い日が続くので、お風呂で温まっている描写があると思った。	← 理由

図 4.3.2: 記入の形式

また、分析に必要なデータを収集するために、データ収集のための制限を行った。分析に必要な項目は必ず入力させることとした。さらに、本システムに無い情報を参照したり、過去にお話会で使用したことのある絵本に対する判断は、分析の際のノイズとなると考え、実験では記録しないよう制限した。

実験時間は40分を想定した。ただし被験者の都合を考え、実験を40分間通して行なう必要はなく、断続的に行なっても良いこととした。

なお、実験時に使用するシステムの機能の使用順序に制限は設けていない。

4.3.3 事後アンケート

事後アンケートでは、被験者が絵本選択の際に参考になっているツールや、お話会の記録を絵本選択に活用しているかどうかを中心に尋ねた。アンケート本文は付録に付す。時間は10分を想定した。

第5章 結果

5.1 被験者

被験者はお話会を行ったことのある事を条件に収集した。その結果17名から協力を得ることができた。ただし、実験を行う際、1名がこちらの指示通りの作業を行っていなかったため、分析に用いるデータは16名分のデータである。

絵本選択の際、絵本以外に何か参考にするものがあるか尋ねたところ、3名が絵本リストを、6名がmi:te [17]や絵本ナビ [18]など絵本を選択することに特化した絵本情報サイトを、3名がお話会を行なっている個人や団体の作成するブログを挙

表 5.1: 被験者の詳細

被験者	年齢	絵本以外の情報源	絵本以外の情報の利用目的	他団体の記録閲覧
a	23	無	-	無
b	20	絵本情報サイト	テーマや季節から絵本を探す	無
c	43	絵本リスト	絵本を選ぶ時の判断材料	無
d	46	無	-	無
e	23	絵本情報サイト	月や季節に合う本を探す 評判や対象年齢を知る	無
f	45	絵本リスト 個人のブログ	未知の本のイメージの確認	無
g	21	絵本情報サイト	テーマから絵本を探す お気に入りの著者の絵本を探す	無
h	20	絵本情報サイト	注目されている本を知る	無
i	21	無	-	無
j	21	絵本情報サイト	対象年齢とレビューの確認の	無
k	21	無	-	無
l	51	絵本リスト 個人のブログ	未知の絵本を探す	無
m	23	無	-	無
n	44	個人のブログ	未知の絵本を探す	無
o	25	無	-	無
p	21	絵本情報サイト	レビューや内容紹介を読む	有

げていた。また、何も参考にせずに絵本を選ぶのは6名であった。詳細を表5.1に示す。

5.2 提示される情報

本システムによって、どのような情報が被験者に提供されたか分析を行う。対象は、実験期間中に候補に挙げるかどうかの判断がなされた絵本61冊についての情報である。それぞれの絵本には、図3.4.1のような情報が提示されるが、この内、内容紹介、お話会の記録、レビューの各情報源に、「絵本」「聞き手」「読み手」の要素が含まれるかどうか判定したものが図5.2.1である。この要素は中村の絵本の読み聞かせ場面における独立変数 [11] を参考に決定した。また判定は、著者含む2名で行い、2名の判断が一致した場合はそのまま採用し、判断が分かれた場合は著者が最終的に判断を行った。一致率は78%である。

この図を見ると、情報源によって書かれている内容が異なることが分かる。内容紹介の場合、全ての絵本に対して「絵本」の記述が有り、「聞き手」や「読み手」に関する記述はほとんど無かった。同じく「絵本」に関して記述されていることの多いレビューは、内容紹介に比べて「聞き手」や「読み手」に関する記述も多く、多様な情報が書かれている事がわかる。一方お話会の記録の場合、これら情報源と異なり、「聞き手」に関する記述が最も多く「絵本」に関する記述は少なかった。

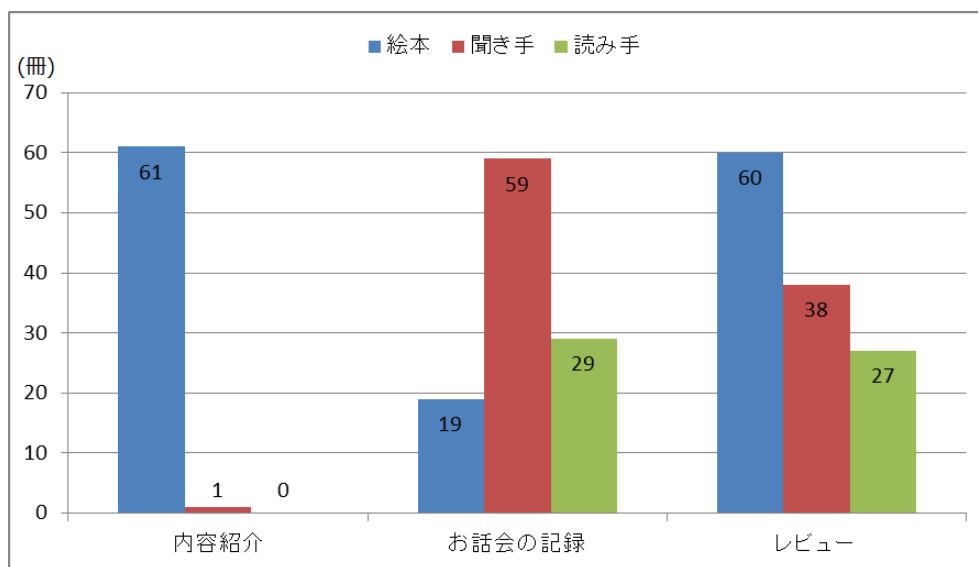


図 5.2.1: 各要素を含む絵本の冊数

5.3 検索語と検索対象

実験期間中、本システムに加えられた操作は942回であった。そのうち、検索は282回であった。検索は図3.3.1に示したように5つの項目で検索できる。この内、最も検索に使用された項目は内容紹介（80回）であり、次いでタイトル（71回）、レビュー（45回）、著者（44回）、お話会の記録（42回）であった。

被験者が用いた検索語を表5.2に示す。表では検索対象ごとに使用回数の多かった検索語の上位10件を示し、()内の数値はその検索語が使用された回数を示し

表 5.2: 被験者の用いた検索語

タイトル (71)	著者 (44)	内容紹介 (80)	お話会の記録 (42)	レビュー (45)
クリスマス (7)	土屋 (2)	冬 (12)	冬 (6)	冬 (4)
ふゆ (7)	宮西 (2)	雪 (10)	集中 (6)	クリスマス (4)
ゆき (6)	佐々木 (2)	クリスマス (9)	12(3)	正月 (4)
冬 (5)	長新太 (2)	正月 (3)	ゆき (2)	12(3)
雪 (4)	さとう (2)	12月 (3)	12月 (2)	雪 (3)
サンタ (4)	中川 (2)	ふゆ (2)	爆笑 (2)	12月 (3)
夜 (3)	平田 (1)	12(2)	クリスマス (1)	温 (3)
つき (3)	うえの (1)	年末 (2)	ふゆ (1)	面白い (2)
よる (2)	瀬田貞二 (1)	てぶくろ (2)	雪 (1)	集中 (1)
せいざ (2)	渡辺茂男 (1)	冬の (2)	正月 (1)	ふゆ (1)

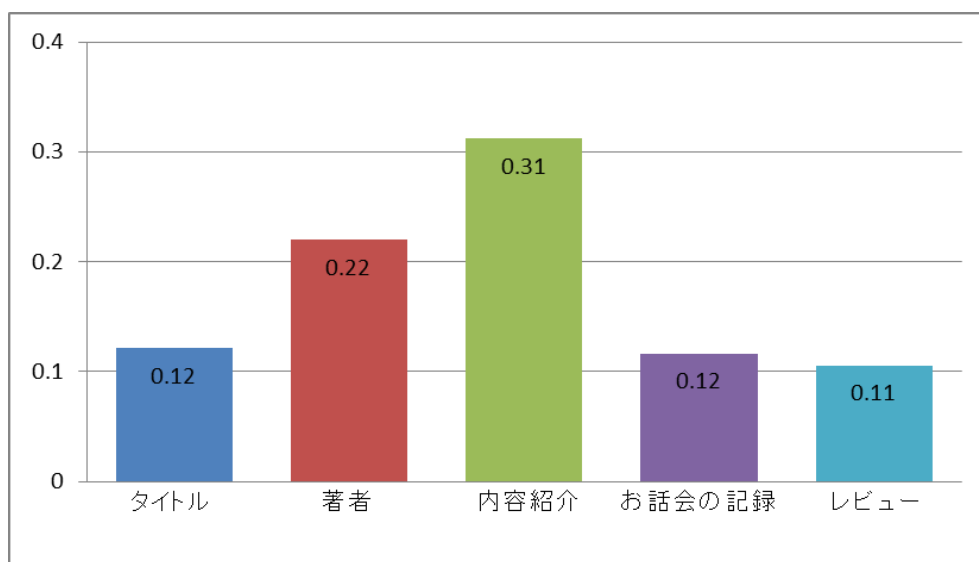


図 5.3.1: 検索の観点

ている。検索に使用された語の多くは、「クリスマス」や「冬」といった季節に関連する語が多かった。季節に関連しないものとしてはお話会の記録の中の「集中(6)」や「爆笑(2)」、レビューの中の「面白い(2)」や「集中(1)」が挙げられる。

被験者が検索を行う際、どの検索フォームから検索を行ったかを図5.3.1に示す。なおこの表では、被験者ごとの検索回数の違いによる影響をなくするため、「ある被験者がある検索項目で検索をした回数÷その被験者の検索の総回数」という形で正規化したものを平均したものである。これは全ての被験者が行った検索が1回だった時、それぞれの検索項目でどの程度検索を行ったかを示しており、値が高い程、その検索項目で検索されたことになる。

図5.3.1の中でも、タイトル、お話会の記録、レビュー同士は差がない一方で、それら項目と内容紹介の間には大きな差がみられる。このことから、内容紹介はタイトルやお話会の記録、レビューに比べて、多く検索対象として用いられていることが分かる。

5.4 参考にした情報

被験者が、書誌事項、内容紹介、お話会の記録、レビューをどういった割合で参考にしていたか明らかにする。そのために、被験者が絵本を候補に挙げるかどうか判断した際に、参考にした情報がどこであったかに着目して分析する。参考にした情報は図4.3.2の注目した部分のところに書かれていた文が、詳細情報のどの部分を指しているかを人手で特定し、数えた。この数は被験者によって異なるため、1人の被験者が参考にした情報源の総数で正規化を行った。そうすることで被

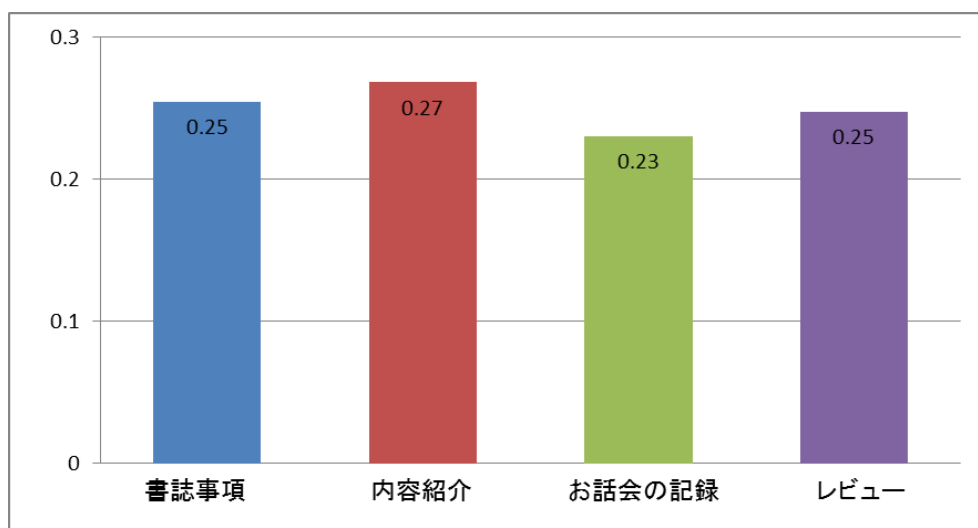


図 5.4.1: 影響度の平均

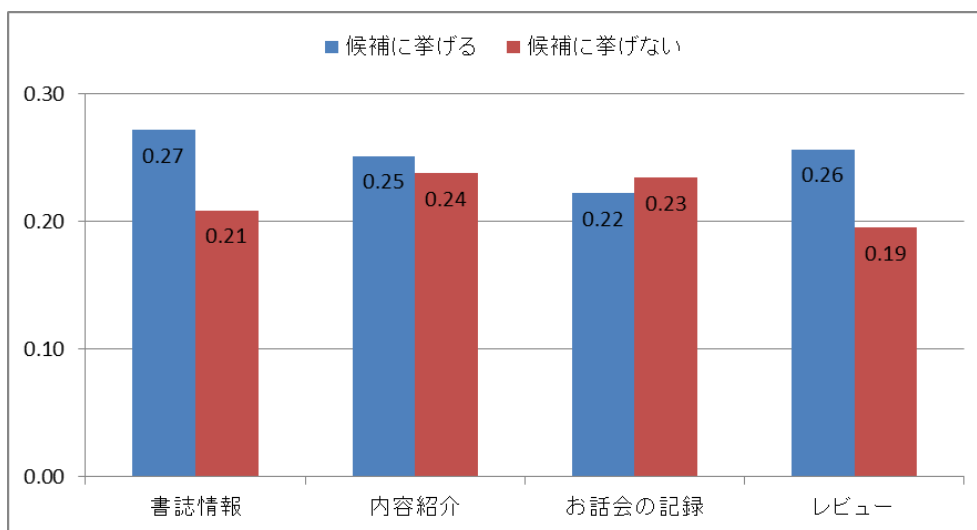


図 5.4.2: 候補別影響度の平均

験者がそれぞれ参考にした情報量を1とした時、それぞれの要素が絵本選択にどの程度影響を与えたかを示すことができる。ここで、この値を影響度と定義する。

影響度を参考にした情報ごとに分けて平均を求めたものが図 5.4.1 である。なお書誌事項とは、絵本のタイトル、表紙画像、著者をまとめたものである。

図 5.4.1 では、内容紹介が 0.27、お話会の記録が 0.23 と数値に若干の違いはあるものの、全体として大きな差は無い。つまり、書誌情報、内容紹介、お話会の記録、レビューは絵本を候補に挙げるかどうか判断する際、同程度参考にされている事が分かる。

さらに、図 5.4.1 を判断した結果候補に挙げた絵本とそうでない絵本で分けたものが図 5.4.2 である。この図を見ると、絵本を候補に挙げた時も候補に挙げていない時も、各情報源を参考に行っている割合に大きな違いは無いことが分かる。

5.5 判断理由

どのような観点に着目して絵本を候補に挙げるかどうか判断したかを分析した。この分析も先述した「絵本」、「聞き手」、「読み手」の3つの観点をを用いる。

具体的にはまず、図 4.3.2 に示した判断理由から、候補に挙げるかどうかの判断理由をこの3つの観点で分類した。例えば、「ストーリーが気に入ったから」のように絵本の内容や著者に関するという理由で絵本を候補に挙げていた場合、この理由は「絵本」に注目したものと判断する。また、「子どもが喜びそうだから」のように聞き手のことに言及する理由で絵本を候補に挙げていた場合、この理由は「聞き手」に着目したものであると判断する。一方「練習しないと難しそう」のように読む側の技量や好みに関する理由で絵本を候補に挙げていない場合、この理由は

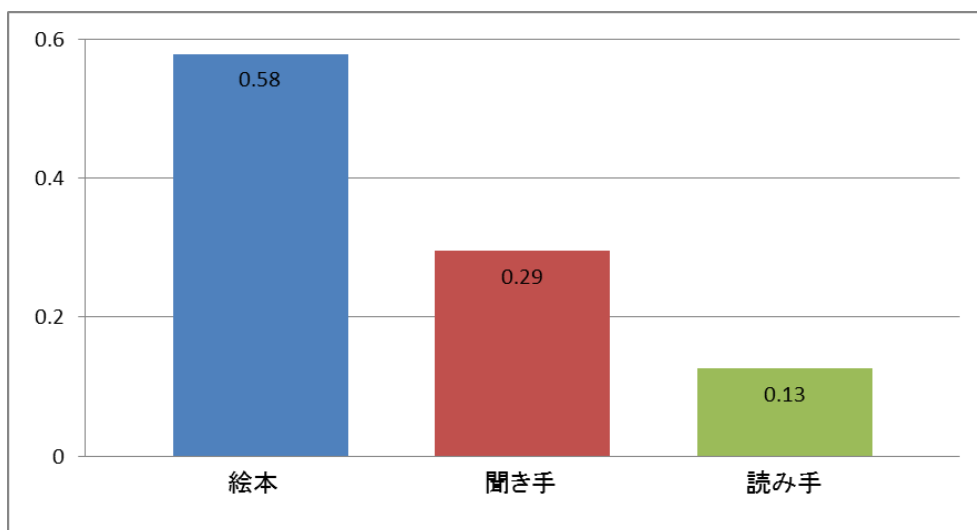


図 5.5.1: 判断理由の観点

「読み手」に着目したものであると判断する。この分類は著者含む2名で行い、2名の判断が一致したものはそのまま採用し、判断の分かれたものは著者が最終的な判断を行った。判断の一致率は71.2%であった。

図 5.5.1 結果を示す。この図は影響度を「絵本」、「聞き手」、「読み手」の観点で分けて示したものである。絵本の値が0.58と高く、次いで聞き手、読み手と続いている。このことから、絵本を理由として候補に挙げるかどうかの判断を行なっている事が分かる一方、読み手を理由としているものは少ない事が分かる。

5.6 参考にした情報と判断理由

図 5.6.1 に参考にした情報と判断理由の観点の関係を示す。これは、図 5.5.1 をさらにどの情報を参考にしたかという観点で分けたものである。書誌情報、レビュー、内容紹介を参考としている場合、図 5.5.1 と同様に絵本を理由とする事が多く、聞き手と読み手を理由とするものは少ないという結果になった。

一方、お話会の記録を参考にした場合の理由は、聞き手を理由とするものが最も多く、他の3つの項目を参考にした場合とは傾向が異なっていた。

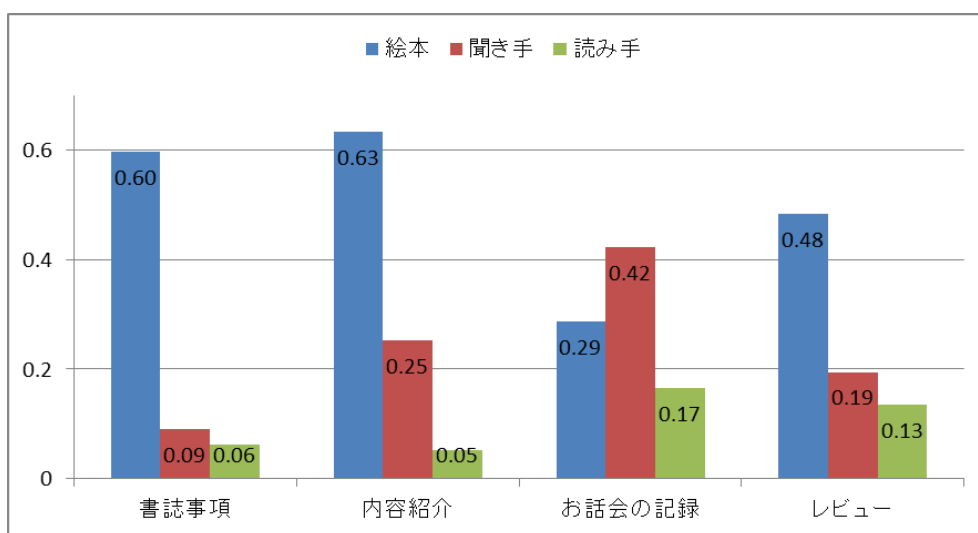


図 5.6.1: 参考にした情報と判断理由の観点

第6章 考察

6.1 お話会の記録が絵本選択に与える影響

図5.5.1で示したとおり、実験全体を通してみた時、絵本の観点が候補に挙げるかどうかの理由として多く書かれていた。しかし、図5.6.1に示す通り、どの部分を参考にしたかを考慮すると、お話会の記録を参考にした時のみ聞き手の観点が理由として多く書かれていた。このことから、お話会の記録が絵本選択に与える影響として、聞き手を意識させる効果があると考えられる。

このように聞き手を意識させた理由として、お話会の記録に書かれている情報の特徴が考えられる。図5.2.1に示したとおり、お話会の記録には聞き手に関する記述がされている事が多い。これは内容紹介やレビューでは見られない特徴であり、聞き手に着目した記述を多く読むことが、聞き手を意識した絵本選択につながったと考えられる。

一方今回の実験の結果、書誌事項やレビュー、内容紹介を参考にして絵本選択を行うと、絵本を選ぶ段階では聞き手をあまり意識しないことが明らかになった。しかし、読み手はお話会が成功したかどうか判定するのに子どもの様子に着目し [15]、さらに、聞き手の態度は読み手のモチベーション等に影響をあたえることが明らかになっている [19]。そのため、絵本選択の段階から聞き手を意識するようにすることで、読み手の満足感がより高いお話会が実現可能になると考える。そのためにも、聞き手を意識させる効果を持つ、お話会の記録を用いた絵本選択支援は有効である。

6.2 お話会の記録が絵本選択に与える影響の強さ

図5.4.1や図5.4.2に示したとおり、絵本選択を行う際には、全ての情報が偏りなく参考にされていた。今満の研究では子どもの様子情報が内容紹介と同程度参考にされる事を明らかにしたが [15]、今回の研究では、レビューと比較しても同程度参考にされることが明らかとなった。さらに、絵本を候補に挙げない理由としてもお話会の記録に書かれている情報は重要であることが明らかになった。そのため、お話会の記録が絵本選択に与える影響は他の情報と同程度であり、現在蓄積されている記録を活用することで、絵本選択の新しい支援が可能になると考えられる。

6.3 お話会の記録と検索

図 5.3.1 に示したとおり、内容紹介とお話会の記録とレビューの中では、内容紹介が主に検索に用いられていた。さらに表 5.2 に示したとおり、検索語には季節に関連するキーワードが多く挙げられており、特にこれら検索語は、内容紹介を検索する際多く用いられている。これはお話会の絵本を探す際にお話会を行う月が重要視されているためであると考えられる。そのため、その絵本と関連する季節を予め明らかにしておくことで、より絵本の探しやすい仕組みができると考えられる。

また、今回お話会の記録とレビューはあまり検索に用いられなかった。これは、1 つには、それぞれの項目がどのような内容であるのか想像しづらかったためであると考えられる。事後アンケートの結果によると web を利用し絵本に関する情報を調べているのは 9 名であった。しかし、その中でレビューを読むことを主な目的としているのは 3 名だけであった。また、自分の所属していない他のお話会グループの記録を見たことのある被験者は 1 名だけであった。このようにお話会の記録やレビューを読む機会が少なく、どのような情報が記録されているかイメージが沸かなかったため、適当な検索語が分からなかったと考えられる。

6.4 今後の課題

今回の研究では、お話会の記録のどの部分がより絵本選択に影響を与えるか明らかでない。そのため、今後の課題として、お話会の記録の詳細な分析があげられる。影響の強い部分を明らかにすることで、その部分を活かした絵本選択支援が可能となるためだ。

また、お話会の記録を検索する際の検索語を思いつかない可能性が示された。そのため、検索を補助する機能がシステムに必要である。そのためにはユーザーがどのような情報を必要としているのか的確に判断し、それに合う検索語を推薦する必要がある。

第7章 おわりに

本研究ではお話会の記録が絵本選択にどのような影響を与えるのか明らかにするための研究を行った。そのために、絵本選択支援システム「よみびとしらず」を構築し、被験者を募って実験を行った。

よみびとしらずは、絵本の書誌情報、内容紹介、お話会の記録、レビューが登録されており、この情報の検索・閲覧が行えるシステムである。また、実験用の機能として、絵本を候補に挙げるかどうかの判断とそのために参考にした情報、判断理由を記録する機能をもつ。このシステムを用いて、お話会の記録が絵本選択に与える影響を明らかにする実験を行った。

実験は12月に公共図書館で行われるお話会を想定し、そこで読み聞かせる絵本の候補を挙げるという設定で行った。被験者は過去にお話会を行ったことのある16名であった。この実験で被験者が絵本の取捨選択を行う際、どの情報を参考に、何を考え、どう決断したのかをデータとして収集した。

結果として、通常は絵本の要素に着目して絵本選択が行われるが、お話会の記録を参考にした場合のみ聞き手に着目することが明らかになった。さらにお話会の記録は他の情報と比べて同程度参考にされており、既存の支援と比べて絵本選択に与える影響が同程度であることが明らかになった。一方、お話会の記録から絵本を探そうとする被験者は少なく、検索語を推薦する機能の必要性が示された。

本研究により、お話会の記録が絵本選択に与える影響とその強さが明らかになった。今後の課題として、今回収集したデータの詳細な分析を行うことと、お話会の記録を検索する検索語の推薦を行う必要がある。

謝辞

筑波大学に入学して6年の月日が経とうとしています。この6年間で学業やサークル等を通して、多様な経験を積むことができました。特に修士課程での研究では得るものも多く、大変充実した6年間であったと思います。このように充実感を得られるのも、筑波大学に所属する、教員の皆様のおかげです。学生が様々な活動を行える環境を用意してくださり、ありがとうございます。

研究指導では特に、松村敦助教、宇陀則彦先生准教授、鈴木佳苗准教授には、研究指導で大変お世話になりました。相談のたびに様々な観点からコメントいただき、自分の見えていない側面に気づくことができました。特に松村助教には、深夜にも関わらずメールのやり取りを行ったり、研究相談にのってもらったりと、学部生時代から変わらず手厚くご指導頂きました。

メンタル面では、研究室の同期や、すでに卒業した同級生など、様々な人に支えられました。あなた方と出会うことができ本当に良かったです。ありがとうございました。

参考文献

- [1] 波木井やよい. “読み聞かせ”. 新・こどもの本と読書の事典. 黒澤浩, 佐藤宗子, 砂田弘, 中多泰子, 広瀬恒子, 宮川健郎. ポプラ社, 2004, p. 189-191.
- [2] 代田知子. 読み聞かせわくわくハンドブック. 一声社, 2001, 122p.
- [3] 今井靖親, 摩小慧, 中村年江. 日本と台湾における絵本の望ましい読み聞かせ方法に関する研究. 奈良教育大学紀要. 1993, vol.24, no.1, p. 211-223.
- [4] 中澤潤, 杉本直子, 井笠恵子, 入江綾子. 読み聞かせのグループサイズが幼児の物語理解・イメージ形成に及ぼす影響. 千葉大学教育学部研究紀要. 2005, vol.53, p. 203-210.
- [5] 文部科学省児童生徒課. 平成 22 年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について (概要) .http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/06/_icsFiles/afieldfile/2011/06/02/1306743_01.pdf, (参照 : 2013-01-05)
- [6] 日本出版学会. 白書出版産業 2010. 文化通信社, 2010, 231p.
- [7] 平塚市図書館. “おはなし会をやろう!”. http://www.lib.city.hiratsuka.kanagawa.jp/katsuyosuru_1_02.html, (参照 : 2013-1-5).
- [8] 加藤慎矢. 読み聞かせにおける絵本の選択規準について. 筑波大学, 2007, 修士論文.
- [9] 東京都立多摩図書館. 読み聞かせ ABC. 東京都立多摩図書館. 2012. 58p.
- [10] 吉岡剛. 幼児絵本の評価をめぐって-1-良書リストの統計による良書リスト. 人文学論集. 1983, vol.17, p. 82-113.
- [11] 中村年江. 絵本の読み聞かせに関する心理学的研究-絵本の読み聞かせに関する変数と望ましい読み聞かせ条件の検討-. 読書科学. 1991, vol.35, no.4, p.149-159.
- [12] 松村敦, 杉七瀬, 宇陀則彦, 読み聞かせ時の反応に着目した絵本に対する子どもの好みの取得方法に関する検討. 日本教育工学会論文誌. 2008, vol.32, no.suppl, p. 125-128.

- [13] 松村敦, 岡本穂高, 宇陀則彦. 絵本の読み聞かせにおける子どもの好みと絵本の主題との関係性. 日本教育工学会論文誌. 2010, vol.34, no.suppl, p.93-96.
- [14] 今満 亨崇, 松村 敦, 岸 広至, 宇陀 則彦. 絵本の読み聞かせにおける子どもの好みと絵本の主題との関係性 II - ページ毎の主題と子どもの反応の再分析を通して -. 日本教育工学会論文誌. 2012, vol.36, no.suppl, (掲載予定).
- [15] 今満亨崇, 松村敦, 宇陀則彦. 子どもの様子に着目したお話会のための絵本選択支援の研究. 日本教育工学会論文誌. 2011, vol.35, no. suppl, p.109-112.
- [16] 楽天. “楽天ウェブサービス: 楽天ブックス書籍検索 API(version:2011-12-01) — API 一覧”. <http://webservice.rakuten.co.jp/api/booksbooksearch/>, (参照 : 2013-01-07).
- [17] kumon. “絵本 — 子育て支援サイトミーテ [mi:te]”. <http://mi-te.jp/>, (参照 : 2013-01-07).
- [18] 絵本ナビ. “絵本ナビ 子どもに絵本を選ぶなら”. <http://www.ehonnavi.net/>, (参照 : 2013-1-7).
- [19] 河崎雅人. 「読み聞かせ」における聞き手の態度が話し手に与える影響. 電子情報通信学技術研究報告. 2006, vol.106, no.84, p. 31-35.

付録

付録:システムの使用方法

実験の概要 & 実験手順の説明

本研究の概要と実験の手順は以下のようになっています

下記の内容に同意していただける場合だけ、システムにログインし作業を行ってください。

研究の概要

- 研究タイトル
お話会のための絵本選択支援の研究
- 目的と手法
お話会の記録が絵本選択支援に有効かどうかを検証することを目的とします
実験ではシステムを使用してもらい、最後にアンケートに回答して頂きます
- 実施場所
インターネットが使用出来る環境であればどこでも可能です
- 個人情報保護
収集したデータは研究以外の目的では使用せず、データの流出が無いよう厳重に管理します
収集した個人情報は個人の特定ができないようIDで管理します
- 実験協力者の権利
実験協力に同意した場合でも個人の都合により随時これを撤回できます
その際、申し出により記録したデータはすべて破棄します

実験の手順

実験では以下の3つの作業を行なってもらいます

1. システムに慣れる(10分程度)
2. 本作業を行う(40分程度)
3. アンケートに回答する

なお、時間をご自身で計測し、それぞれ時間がきたら次の作業に移ってください。システムに時間の経過を知らせるしくみはありません

各作業には時間が設定されていますが、一度にまとめてやる必要はありません。万一途中で作業を中断した場合は、今までの作業時間を記録しておき、トータルの作業時間が上に示した時間になるように調節して下さい。

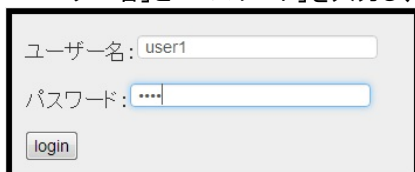
1. システムに慣れる

下にシステムの使い方を示します。1～7まで一通り利用しシステムに慣れてください。
およそ5～10分程度です

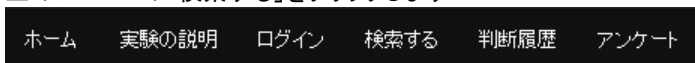
1. 上のメニューの「ログイン」をクリックします



2. 「ユーザー名」と「パスワード」を入力し、「login」ボタンを押します(メールで指定されたものをお使いください)

A login form with a light gray background. It contains two input fields: 'ユーザー名:' (Username) with the text 'user1' and 'パスワード:' (Password) with a masked password '....'. Below the fields is a 'login' button.

3. 上のメニューの「検索する」をクリックします



4) フォームにキーワードを入れて「検索」ボタンをクリックします

判断履歴 (looked.cgi)

著者、タイトル、内容紹介、レビュー、お話会の記録のいずれかから探すことができます
アンケート (survey.cgi)

著者から探す: 検索

タイトルから探す: 検索

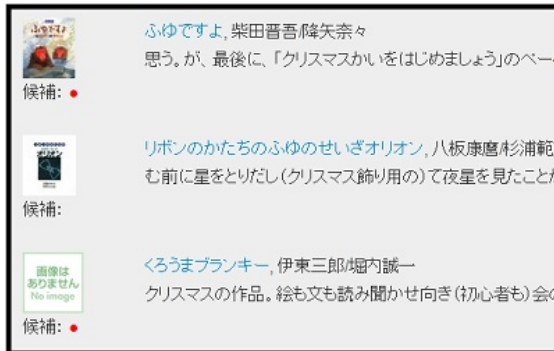
内容紹介から探す: 検索

レビューから探す: 検索

お話会の記録から探す: 検索

すべて表示する:

- 著者: 絵本の著者から検索します
 - タイトル: 絵本のタイトルから検索します
 - 内容紹介: 絵本の内容を紹介している文章から検索します
 - レビュー: 絵本を読んだ方の感想から検索します
 - お話会の記録: 図書館でお話会を行った後作成される記録から検索します
 - 全て表示する: データベースに登録されている全ての絵本を表示します
 - 複数の条件を組み合わせた検索(例えば、著者とタイトルを指定した検索)はできません
 - 短い単語の方が、検索されやすくなります(例えば、笑う→笑)
5. 絵本の一覧が表示されますので、その中から気になったものをクリックします




6. その絵本の詳細情報が表示されます。これを読んで「候補に挙げる」か「候補に挙げない」かを選択し、その理由を書いてください。
- 候補に挙げない場合も必ず理由を描いてください

必ず記入してください

候補に挙げる 候補に挙げない

「だるまんさん」シリーズ第1弾です
このシリーズの、別の本が面白かったから

 だるまんさんがかかいいひろし, ブロス新社, 2008年01月,
「だるまんさん」が...」左右にうごくだるまんさん, 「だるまんさん」シリーズ第1弾です
「だるまんさん」が...」左右にうごくだるまんさん, 「だるまんさん」シリーズ第1弾です

お話会の記録
「だるまんさん」が...」左右にうごくだるまんさん, 「だるまんさん」シリーズ第1弾です
「だるまんさん」が...」左右にうごくだるまんさん, 「だるまんさん」シリーズ第1弾です

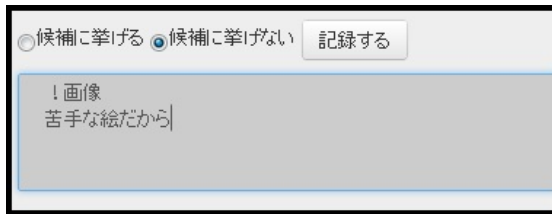
レビュー
「だるまんさん」が...」左右にうごくだるまんさん, 「だるまんさん」シリーズ第1弾です
「だるまんさん」が...」左右にうごくだるまんさん, 「だるまんさん」シリーズ第1弾です

- 理由は以下のように「注目した部分」と「判断理由」の組み方で書いて頂きます
 - 「注目した部分」はその部分の文章をそのまま書き、行頭に「！」を付けます
 - 文章をそのまま書くのが面倒な場合、コピー＆貼付けが有効です
 - コピー＆貼り付けの方法
 1. 左クリックしたままマウスを動かし、テキストをなぞります
 2. 色が変わった場所で右クリックし「コピー」をクリックします
 3. テキストエリアで右クリックし、「貼り付け」をクリックします
 - 「注目した部分」が、画像の場合は「！画像」と書きます
 - 「判断理由」はその下の行に書きます
 - 例えば、「だるまんさんシリーズの第一弾です」という部分に注目して、「だるまんさんシリーズの別の本を読んだ時に面白かったから」という理由で「この絵本を候補に挙げる」とした場合は下の画像のようになります

候補に挙げる 候補に挙げない

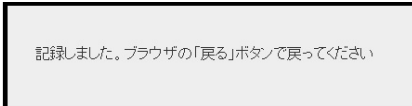
！だるまんさんシリーズの第一弾です
だるまんさんシリーズの別の本を読んだ時に面白かったから

- また、「絵本の画像」に注目して、「苦手な絵だから」という理由で「この絵本を候補に挙げない」とした場合は下の画像のようになります



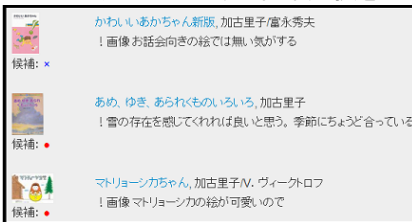
- 2つ以上の理由がある場合は、上記の書き方を繰返してください

7. 入力が終わったら「記録する」ボタンをクリックします
8. 次のような画面が出るので、ブラウザの「戻る」ボタンを押して前の画面に戻ります

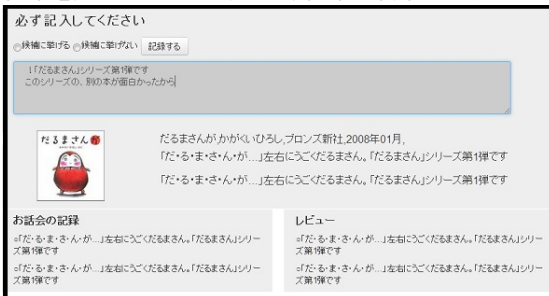


9. 3の手順に戻ったり、ブラウザの「戻る」ボタンを押して5の手順に戻り、別の絵本を探した後、8までの手順を繰り返します
 - 一度候補に挙げるかどうか判断した絵本は、画像の下に候補に挙げたかどうか●×で表示されます

10. 過去に自分がどのような絵本選択をしたか見たい時は「判断履歴」をクリックしてください



11. 絵本を選んでクリックすると、絵本の詳細と自分が入力した直近の情報が記入された画面が出てきます



12. もし候補に挙げるかどうかの判断を変更する場合は、既書いてある理由をすべて消し、新しく注目した場所と理由を書いてください
13. 作業終了時間になったら上のメニューの「ログイン」をクリックしてください



14. 「logout」をクリックしてください



- 注意
 - 絵本の詳細ページを見たら必ず「記録する」ボタンを押して下さい。
 - 何も表示されない場合、「ユーザー認識」をやり直すか、検索キーワードを変えて下さい

2. 本作業を行う

- 本作業用のユーザー名とパスワードでログインしてください
 - 作業1とは違うユーザー名が通知されていると思います。作業2用のユーザー名とパスワードでログインして下さい
- (ログインの方法は前述の1, 2を見てください)
- 上で行った手順と同様の手順で、お話会で使用する絵本の候補を挙げて頂きます
- 想定として次のような状況にあると想定してください
 - あなたは12月にお話会をすることになりました
 - 場所は近くの公共図書館であり、参加者の年齢等はわかりません。
 - このような状況で本システムを用いてお話会で使用する絵本の候補を挙げ、後に実物を確認した上で使用する絵本を決定しようと考えています
 - 実験を行う上での制限として以下の点があります

- 自分が過去にお話会で使用したことのある絵本は候補に挙げないでください
- 後に実物を見る状況を仮定しているので、実物を見るのに無理の無い量を候補に挙げてください
- 実験用システムなので、検索できる本には限りがあります

○ 時間は40分程度です。終了時間になったら13,14の手順に従いログアウトしてください

3. アンケートに回答する

1. アンケート用のユーザー名とパスワードでログインしてください
上のメニューの「アンケート」をクリックします

ホーム 実験の説明 ログイン 検索する 判断履歴 アンケート

2. 表示されたアンケートに回答し、最後に「送信」ボタンをクリックします

実験は以上です